



### 「とくしまの森づくりに関する覚書」等の締結

(六丁地域森林整備の推進に関する協定締結)

(とくしまの森づくりに関する覚書締結)



左から伊藤室長、山本署長、杉浦専務理事



左：木村副知事、右：中山局長

機能を一層発揮させるため、間伐、森林施業の共同団地化等を推進すること②資源循環型社会の形成や地球温暖化防止に資するため、徳島スギを中心に地域材の利用拡大を図ること③森林・林業に対する県民の理解を深め、幅広い県民の参画による森林整備を推進することとしています。

また、今回の「覚書」を具体的に実施するため、三月二十五日、徳島森林管理局において、徳島森林管理局の山本署長、徳島県林業公社の杉浦専務理事、徳島県の伊藤林業再生推進室長の三名が「六丁地域森林整備の推進に関する協定書」に署名しました。同協定においては、徳島県那賀町に共同施業団地を設定し、間伐の積極的な実施、間伐材の利用促進、作業路網の整備等に民有林・国有林が一体となって取り組んでいくことを盛り込んでいます。

森林は将来にわたり保全・継承していく県民共有の財産であり、今回締結した「覚書」、「協定」を契機として、今後、徳島県における民有林・国有林を通じた森林整備、木材利用の推進、森林環境教育の推進等に、国、徳島県、市町村等がより一層連携・協力して取り組んでいくことが期待されます。

〈徳島森林管理局〉

四月八日、徳島県庁で、徳島県の木村副知事、四国森林管理局の中山局長が、「とくしまの森づくりに関する覚書（三月十九日に締結）」について、今後、具体的に進めていくための意見交換等を行いました。

四国四県知事と四国森林管理局局長の間では、平成十六年十一月に、①多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進②木材の利用推進③森林環境教育活動の推進④「四国山の日」（十一月十一日）の創設を内容とする「四国の森づくりに関する共同宣言」を締結しており、今回の「覚書」は、徳島県において「共同宣言」を具体的に進めるために締結したものです。

「覚書」においては、徳島県と四国森林管理局は協力して、①森林の有する多面的



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆インキを使用しています。

## 林野庁長官来局

総務課

四月一日、井出林野庁長官が、森林管理局を訪れ、「公務員へに対する厳しい目が向けられる中、萎縮することなく前向きに取り組むこと。森林・林業に対する風は追い風となっている。この風を生かしていくのも我々の仕事である。」等、局職員への訓示を行いました。

その後、一三日までの三日間、中山間地域の現状視察のために、高知県内の四万十町、橋原町、馬路村を訪れ、それぞれの地域住民の声を聞かれるなど、地域の現状を視察されました。

四万十町では、「林内高密度路網の作設地」、橋原町では、「国



職員への訓示をされる井出庁官



視察先の「林内高密度路網の作設地」

と町等との森林施業協定林」、「ベレット工場」、馬路村では、「エコアス馬路村」や「こっこくん馬路村」の工場視察等、高知県内中山間地域の視察を終え帰京されました。

## 農林連携するまで座談会

企画調整室

四月二日、当森林管理局の中山局長と中国四国農政局の関岡局長の両局長が徳島県三好市を訪れ、俵三好市長、渡辺産業観光部長、高畑環境福祉部長ら市役所幹部の方々と「農林連携するまで座談会」四国農林業の明日に向けて」と題して意見交換を行いました。

四国の農林業は、少子高齢化の進行、海外農林産物の輸入等内外の厳しい経営環境に直面しており、これを克服し活性化し

ていくことが課題となつています。このため、農林業の振興に尽力している第一線の市町村長から、行政上の課題等を現地直接お聞きし、今後の農林行政国営林の管理経営の推進に活かしていくことを目的として、二月の高知県四万十町に引き続き実施しました。

当日は、三好市内の林内作業路を活用した搬出間伐箇所や檜尾地区の民有林直轄地すべり事業箇所を視察した後、三好林業総合センターにおいて、意見交換会を実施しました。

俵市長からは農林業従事者の高齢化と後継者不足の中、鳥獣被害に悩まされているが、中山間地域の直接支払い、間伐等の森林整備など国の事業を活用しながら、農地・林地といった地域の資源を



活用し、地域を振興したいと考えている。農業の分野では加工品を含めて地場産物の育成や地産地消、また、林業の分野では森林認証、森林バ

イオマス、間伐の推進といった点について、今後、ご支援を頂きたいとの発言がありました。

これらの点について、活発な意見交換が行われ、関岡農政局長から、国の支援策の具体的な活用方法を紹介するとともに、中山局長からも、地方財政措置をはじめとする間伐促進対策、木質バイオマスといった事業への支援策、森林認証についての取組状況などについて説明しました。

翌日は、NPO法人が経営する滞在型市民農園や先進的な施設園芸農家（イチゴ栽培）などを視察し、経営者の方々と意見交換を行いました。

森林・林業の視点のみならず、地域の振興・活性化のあり方についても意見交換を行うことができ、今後も機会をとらえ、こうした座談会を行うことにより、四国地域における農林業の課題を把握し、地域の振興・活性化に向け努力していきたいと考えています。

## 緑の募金

子どもも募金！

指導普及課

毎年恒例の（社）高知県森と緑の会主催による「春の街頭募金」が、「緑の募金でふせこう地



「子ども」も募金に協力

球温暖化」をスローガンに、四月十三日（日）高知市の帯屋町筋商店街で行われました。出発式の後、中山局長を始め、高知県森と緑の会の川合理事長、ボランティアスタッフらが、「国土の保全や森林づくりのために有効に活用します。」と大きな声で募金を呼びかけると、子どもからお年寄りまで多くの方々が足を止め、たくさんの方々が寄せられました。

今年から京都議定書の第一約束期間が始まり、森林への関心も一層高まることが期待されます。春の募金期間は五月三十一日までとなっております。皆さんのご協力をお願いいたします。